

水道標準プラットフォームの概要 に関する補足資料

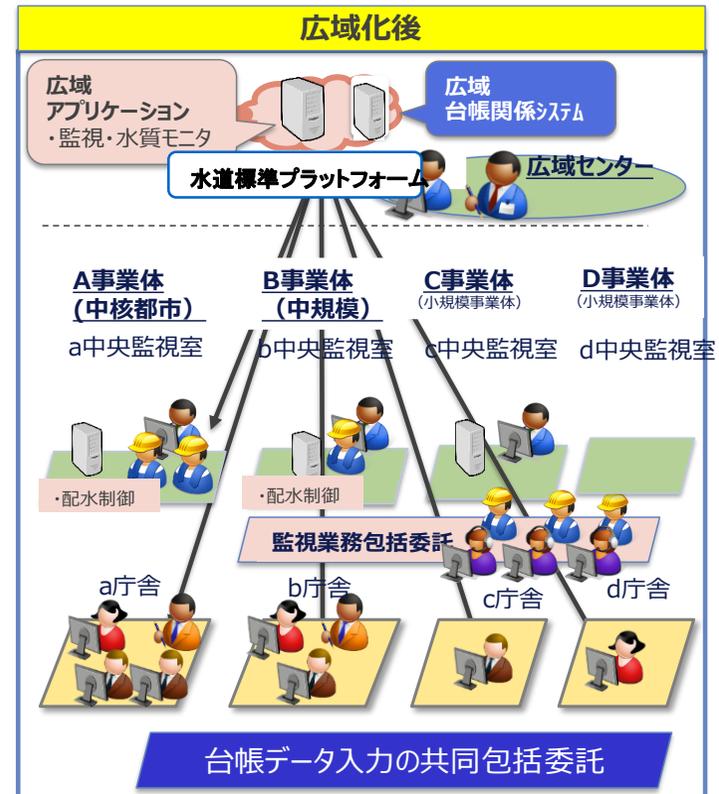
① 割り勘で低コストに ～アプリケーションの割り勘～

- 事業体内もしくは事業体同士の施設の共同利用の加速 = システムのダウンサイジングにより、負担軽減
- 管理の一体化の加速 = 事業体内、事業体同士の連携による管理業務の一体化などが進む

効果 1 : システムの集約化により、人員配置が最適化

効果 2 : システムの集約化により、業務の包括委託（監視業務やデータ入力業務）が促進

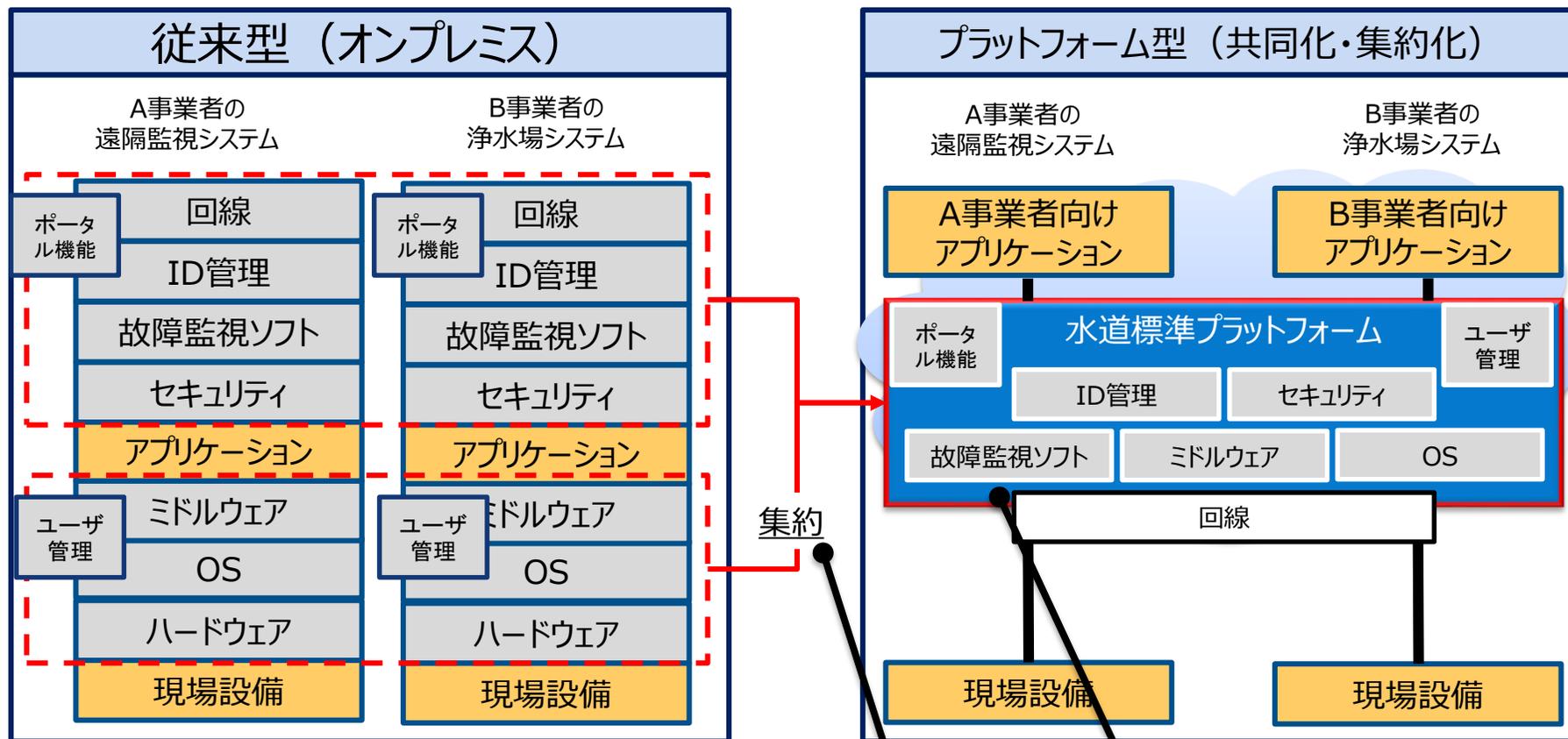
効果 3 : 広域化における中核事業体による小規模事業体への支援が可能に



システムの共有化により、コストを削減（割り勘効果）

① 割り勘で低コストに ～システム機能の集約による割り勘～

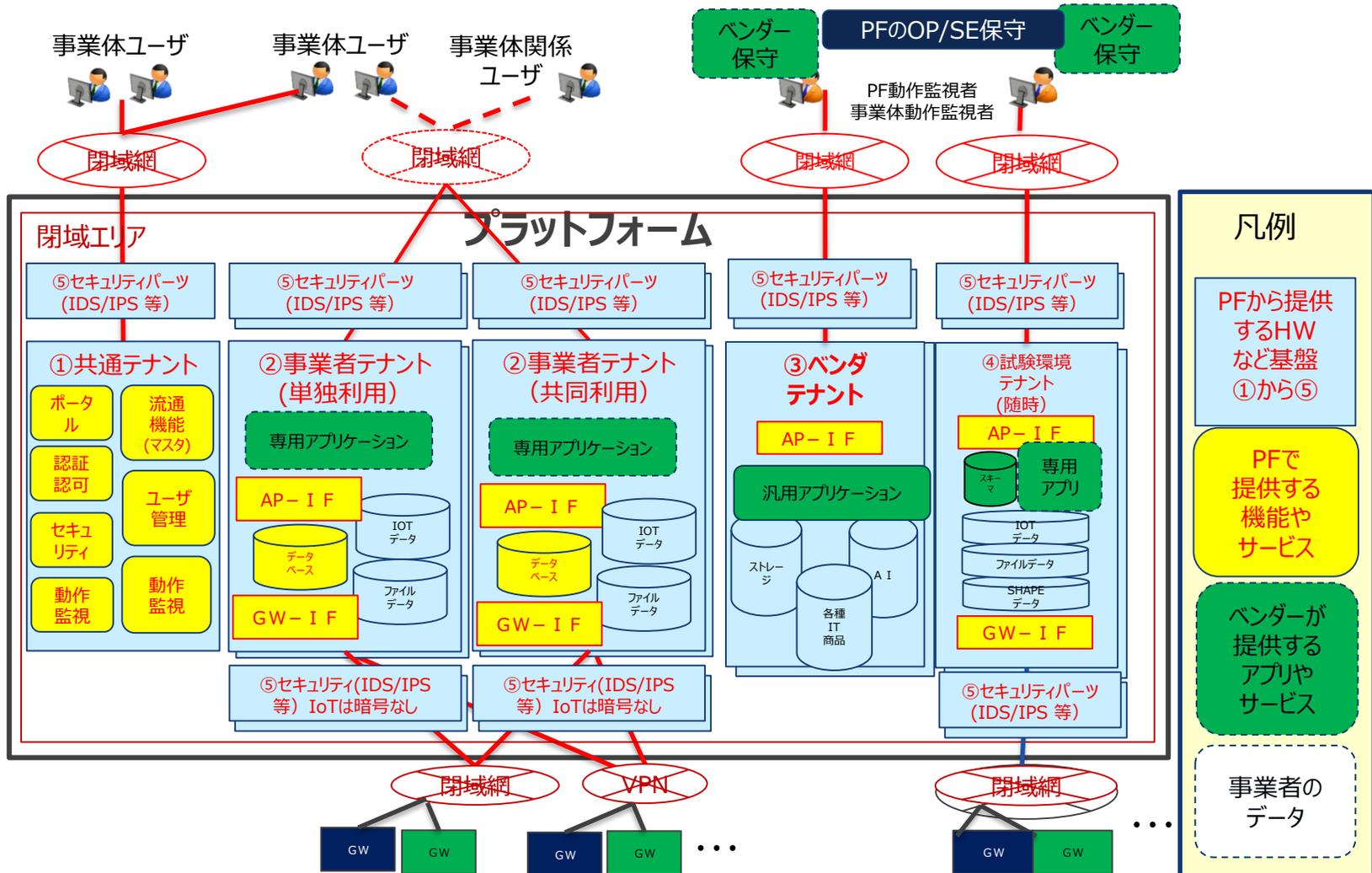
- 各ベンダーが重複して構築している部分をPFが「共通機能」として提供し、共通機能を複数事業者で共同利用することで割り勘効果を働かせ、コスト削減を実現
- 更にレトロフィットできるような対応の実現（既存の事業者様のやベンダー様の資産を有効に活用）



共通で利用する機能やシステムをプラットフォームで標準提供し「割り勘効果」を実現

① 割り勘で低コストに ～システム機能の集約による割り勘～

- 各ベンダーがシステム構築・運用において重複している部分をPFが「共通機能」として提供し、共通機能を複数事業者で共同利用することで割り勘効果を働かせ、コスト削減を実現
- ディザスタリカバリーとしてのバックアップ方式なども事業者のニーズに合わせて対応



②システム投資（資本的支出）でなく、毎年の利用料負担（費用計上）に

現状（個別構築）

- 従来システムの導入においては、償却期間（15年間）の利用が大前提
- このため、広域化プロセスにおいて、「短期間だけ使いたい」「設備統廃合で監視箇所が少なくなる」「監視内容・点数が変わるのに」といった事情に対応した、システム導入の選択は困難



将来（水道標準プラットフォーム利用）

- クラウドサービス形式での利用も可能となるため需要（事業規模、期間）に応じた柔軟な利用が可能に。
- GWの設定を変更すれば、再利用可能
- 広域化進展による監視箇所増にも対応可能



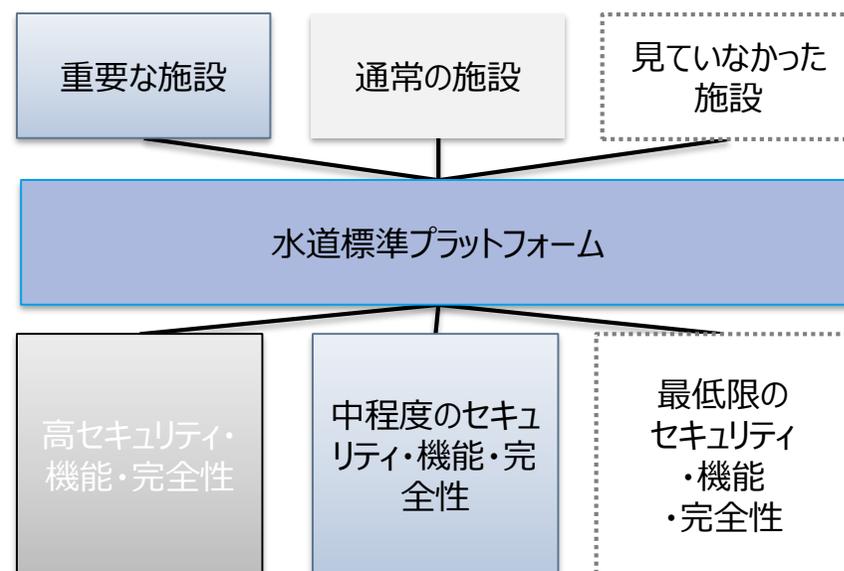
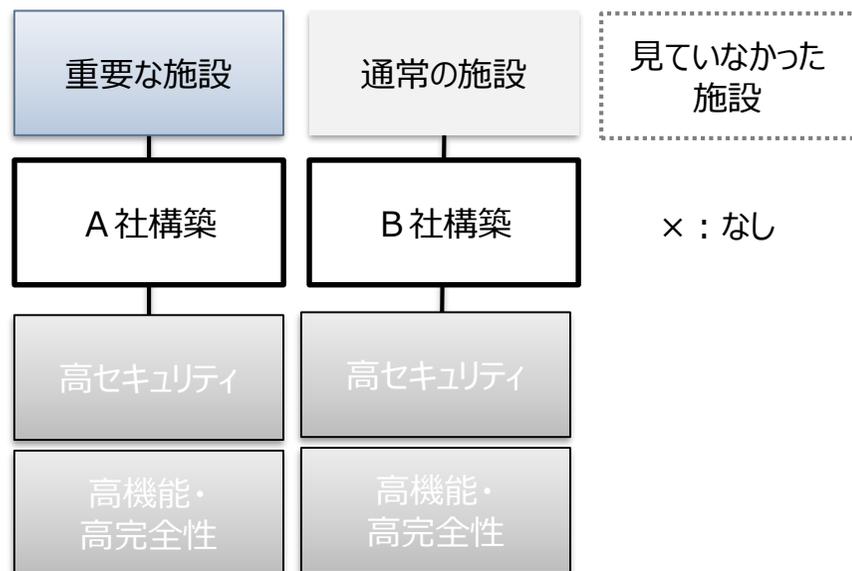
③業務の一体運営をしやすく→広域化を後押し

現状（個別構築）

- 一度決めた方式からの変更は、個別に、改造や仕様検討が必要となり時間・手間がかかる。
- 既存のベンダしか対応できない。

将来（水道標準プラットフォーム利用）

- 必要な機能やセキュリティやコスト、必要期間を考慮し、最適な機能やサービスが選べるように。
- 各種アプリケーションや機能は、競争環境にあり、最適な価格で購入できるように。
- 必要となる機能が必要な分提供される



④セキュリティへの対応

プラットフォームとしてのセキュリティ対応について

選択 パーツ 番号	水道標準プラットフォームの セキュリティーパーツのメニュー		LGWAN対策内容	
1	○	閉域網での接続を前提	総合行政 ネットワーク ガイドライン	行政専用の閉じたネットワークを用いて、不正アクセス等の脅威を防止する。
2	○	ファイアウォールで不正侵入防御	LGWAN の概要	ファイアウォールによって侵入の脅威から防御する。
3	○	通信経路を暗号化し、盗聴防止		通信経路を暗号化し、盗聴防止策。
4	○	IDS(不正侵入検知) IPS(不正侵入防止)		全ての通信を侵入検知機能 (IDS) IPSで監視し、不正アクセスの検知
5	○	・通信データの暗号化により、「盗聴」、「改ざん」を防止。 ・多要素認証 ・利用者アクセスログを保持		認証技術による情報の「盗聴」「改ざん」「なりすまし」「事後否認」を防止する。
6	○	IDS/IPSのアラートを24時間365日監視対応を実施。		専門家による24時間365日のセキュリティ監視を行う。